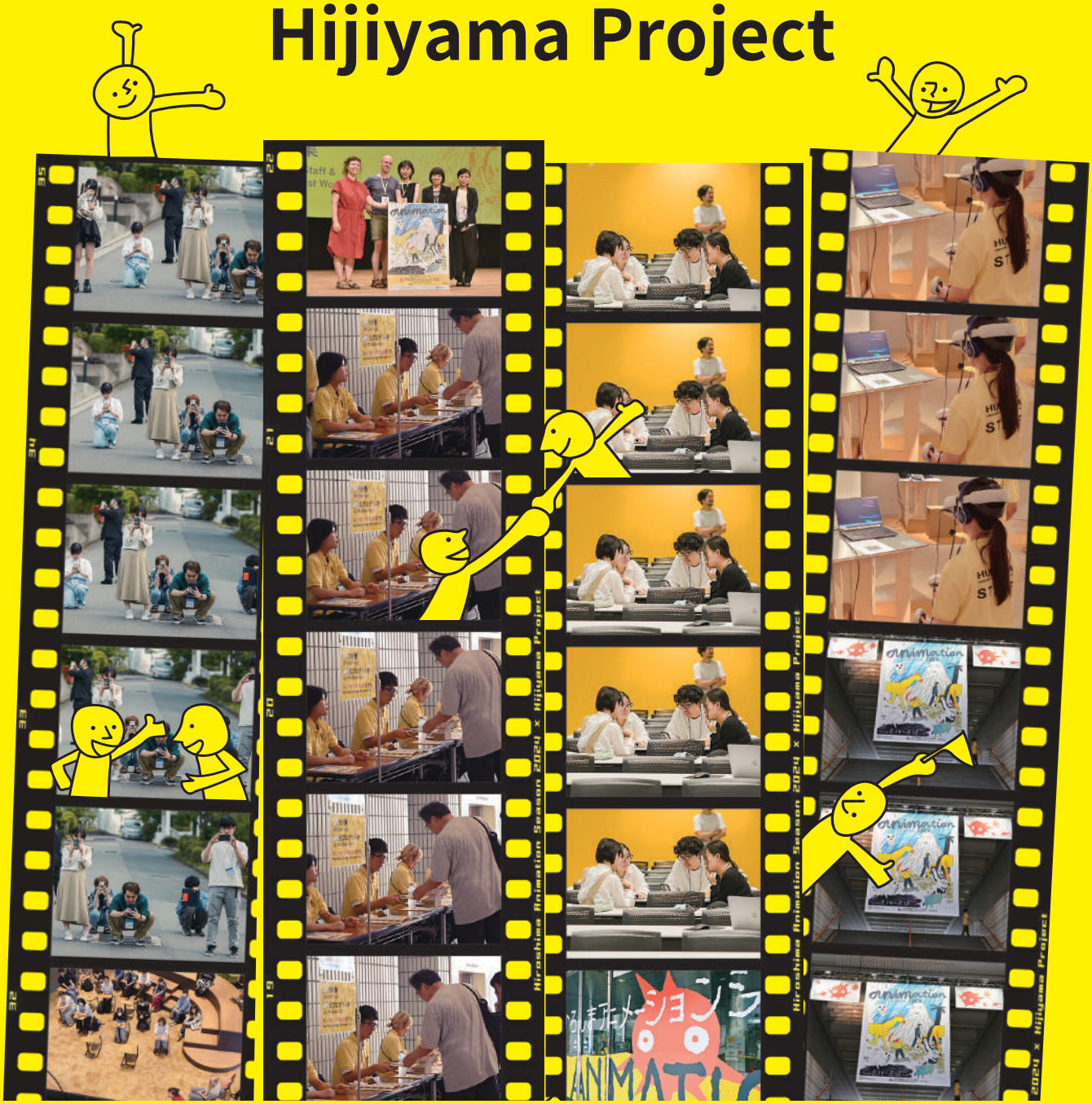
Hiroshima Animation Season 2024 × Hijiyama Project



Hijiyama University　Hijiyama Junior College

学生の可能性を広げる
～ひろしまアニメーションシーズン2024への参画を通じて～

比治山大学・比治山大学短期大学部は、「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」人間を育成するという建学の精神・理念に基づき、専門的知識と豊かな人間性をもち、地域社会や世界の発展に貢献する人材を育てています。学修や課外活動、地域と連携した活動で日々自分を磨く学生が、自ら成長している実感と自信を持ち、これからの社会で存分に活躍できる教育を実践しています。

今回、「ひろしまアニメーションシーズン 2024」への参画は、学生にとって貴重で刺激的な経験であり、アニメーションを通じて、人との交流を学び、地域理解を深め発信していく機会となりました。学科での学びをこのプロジェクトで生かし、また学科を越えて一つのイベントに携わることは、学生自身の成長につながる活動であると確信しています。

比治山大学・比治山大学短期大学部 学長
宮谷 真人

学生の地域連携活動の推進

生涯学習・地域連携センターでは、学生の地域活動を推進するため、2024 年度は広島市主催の「ひろしまアニメーションシーズン 2024」の運営協力及び大学独自のプログラム実施を通じて、学生へ地域活動の体験機会を創出し、学生自身の成長につなげる取り組みを行いました。またその活動の様子を冊子にまとめ、蓄積することで、未来の学生への学びにつなげることを目指しています。

生涯学習・地域連携センター長　宮﨑 しずか

生涯学習・地域連携センターは、大学が地域とつながり、学生や大学の資源を活用して地域の課題解決や発展を支援し、共に地域の未来を築き上げることを目指しています。

本学の学生は、この映画祭での活動をはじめ、日頃から自治体や地元企業と積極的に関わっています。例えば、狩留家なすを使ったジャムの開発や観光ビデオの制作など、学外の方々と協働する機会を得て、学びを実践へとつなげ、社会で活躍する力を養っています。また地元に愛される大学として、求められる個性豊かな役割に対して、生き生きとしたアイデアと機動力をもって応え、この地域になくてはならない存在となることを目指しています。

生涯学習・地域連携センター教員　中村 孝

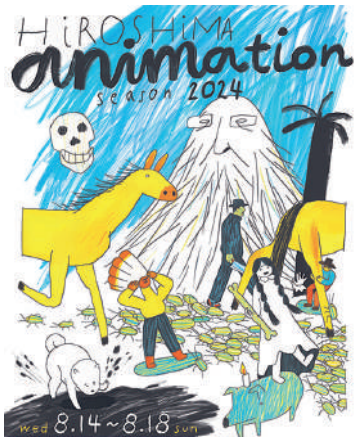
今回一番感じたのは学生たちの成長です。様々な学年・タイプの学生がいましたが、総じてコミュニケーション力やチームワーク力といった汎用的な力（「4 × 3 の比治山力」）が成長していました。また、ゲストを喜ばせようと想像力を働かせ行動しており、発想力や企画・計画力も育まれていました。成長した一番の理由は学生の興味関心や意欲が軸にあったからだと思います。今後も本学らしい、学生が主軸の体験・授業を増やしていきたいと思います。

生涯学習・地域連携センター教員　林 春伽

本冊子は、本学学生が行った HAS への取り組みを記録し、学生の活動の積み重ねと軌跡をまとめ、学生の成長を記録することを目的としています。また、次回以降、再度同様の活動を行う際の再現性を高めることにも繋がります。本冊子から、「HAS× 比治山」全体の取り組みや学生の成長具合を知ることができます。

ひろしまアニメーションシーズンについて

ひろしまアニメーションシーズン（HAS）は、広島とアニメーションの長い歴史を受け継ぎながら存在する、日本で唯一の米国アカデミー賞公認の国際アニメーション映画祭です。2 年に一度開催され、2022 年からは、「ひろしま国際平和文化祭（広島市及び公益財団法人広島市文化財団）」のメディア芸術部門の企画として、新たに生まれ変わりました。これにより、地元との連携をさらに強化し、これまでの国内外の参加者に加え、映画祭を支える地域の方々にも楽しんでいただけるよう、新しい企画や仕組みが工夫され、この比治山大学との協働もその一助となっています。



ひろしまアーティスト・イン・レジデンス（H-AIR）と本学の関わり

HAS は、環太平洋・アジア地域を中心に、全世界のアニメーションを集め、広島の夏を多彩なアニメーション体験で彩ることを目指しています。本学が特に密接に関わったのは、「ひろしまアーティスト・イン・レジデンス（H-AIR）」です。この企画は、広島市内でアニメーションに関する作家に滞在制作の場を提供することで、作家のキャリア形成を支援し、地域のアートカルチャーシーンをより豊かにすることが目的とされています。振り返ると、市民や大学がアーティストと最も近い距離で関わる事が多く、映画祭にとってアーティストたちは、映画祭の「アンバサダー」として市民に映画祭への親しみを感じさせる役割を果たしました。

2024 年は、子ども向けアニメーションを得意とするブリット・ラース（ベルギー）、日本の文字に興味を持ち来日したダニエル・ウェセイク（イスラエル出身、オランダ在住）、世界最大のアニメーション映画祭であるアヌシー国際アニメーション映画祭で学生グランプリを受賞したムン・スジン（韓国）といった実力派アーティスト 3 名で、約 100 名の応募の中から選ばれました。

本学では 2022 年から H-AIR のアーティストに制作活動の場として、学内施設を無償で提供しています。学生は身近にいる彼らとの交流を通じて、多くのことを学んでいました。

本学内等で開催されたアーティストとの交流

ブリットさんは、街に溢れる日用品の形や看板の文字から愛らしいキャラクターを生み出しました。美術科の今田先生のサポートを受け、彼女は陶器でそのキャラクターを形にし、日本の文化との対話を楽しみました。

ダニエルさんは日本の文字の形や背後にある物語に心を動かされ、独自のフォントデザインでその魅力を表現しました。美術科の砂川先生のシルクスクリーンの授業に参加し、学生たちと共に作品を制作。さらに言語文化学科の佐々木先生から日本語の構造や歴史を学び、その奥深さから新たな視点を得ることができました。

スジンさんのワークショップでは、本学学生が韓国語の通訳に協力しました。

HAS×比治山 半年間の活動について

HAS×比治山プロジェクトは授業科目として取り組む学生(1年生)のほか、2年生以上の多くの学生が活動への参加を希望し、学科・学年を超えた取り組みとなりました。参加者全員に対し、必要なスキルを身につけたり、連帯感を高めるための全体プログラムを行うとともに、各イベントの実施や情報発信のための各チームの活動が展開されました。

授業としての取り組み

2024年度、大学及び短期大学部の学生が共通で履修できる科目(共通教育科目)が大きく変わりました。その中で、ひろしまアニメーションシーズンと協働する科目「芸術学」(集中)も新設されました。

プロジェクトは、「芸術学」の履修者を中心に、参加を希望する学生を募り開始しました。プロジェクト内で担当する役割は、学科・学年にとらわれず、学生の興味・得意分野によって決めました。もちろん、例えばマスコミュニケーション学科の学生は記事を書くことに元々興味があるため、広報チームに所属しましたが、美術科から観光チームや司会チームを希望した学生もおり、学科間交流も深まりました。

全体プログラムの概要

全5回実施した全体プログラムでは、ボランティアスタッフとして必要なスキルを身に付けたり、仲間意識を高めたり、やる気を引き出し、熱を高めていくための工夫も大事にしました。

4月24日 第1回 参加者募集・説明会

多くの学生に興味を持ってもらうため、何度も事前説明会を開催。授業履修者以外の参加もあり、50名以上の学生が集まりました！

5月15日 第2回 アニメーション映画祭の役割・作品鑑賞・解説、チーム分け

そもそも映画祭って何？広島にあったことを知らなかった！アニメーションって多様！作品鑑賞を通して、映画祭への興味が高まりました。

5月29日 第3回 よい写真の撮り方～感動的な記録写真を撮ろう～

大学ホームページに、イベントレポート、冊子…誰もがカメラマンとなって動きますが、いい写真ってどうやって撮るの！？をプロカメラマンから伝授されました。

7月10日 第4回 中間報告会

他のチームがどんな動きをしているのか、お互いのお仕事拝見。みんな経験値が上がっています！

8月7日 第5回 HAS当日に向けた説明会、スタッフミーティング

いよいよ本番に向けて、集合時間や持ち場の確認。

HAS×比治山 スケジュール

	4月	5月	6月
全体	●「HAS× 比治山」プロジェクト参加者募集・説明会 ●第1回全体プログラム	●第2・3回全体プログラム	●H-AIR アーティスト歓迎パーティー 6/5 ●H-AIR 学内お披露目会 6/12 ●H-AIR お披露目上映会「HELLO!HIROSHIMA」6/12@横川シネマ
イベント運営	●第1回全体プログラム運営補助	●H-AIR 歓迎パーティー運営準備 ●毎週火曜日、ランチ会	●H-AIR 歓迎パーティー運営 ●H-AIR お披露目上映会「HELLO!HIROSHIMA」運営 ●H-AIR 書道教室交流 ●毎週火曜日、ランチ会
映像編集			●H-AIR お披露目上映会「HELLO!HIROSHIMA」作品の映像送出 ●HAS 上映作品ダイジェスト映像制作
グラフィックデザイン	●企画打合せ		
展示			
広報・宣伝		●取材方法レクチャー ●取材先と取材日程の確認	●H-AIR 歓迎パーティー、H-AIR 学内お披露目会、H-AIR お披露目上映会「HELLO!HIROSHIMA」取材・広報記事作成 ●翻訳プロジェクト取材・広報記事作成
翻訳・通訳	●日本映像翻訳アカデミー(JVTA)第1回授業、翻訳開始	●(JVTA)第2回・3回授業	●(JVTA)第4～6回授業 ●H-AIR 学内お披露目会、H-AIR お披露目上映「HELLO!HIROSHIMA」通訳 ●H-AIR 学内講義通訳
司会		●H-AIR 学内お披露目会、H-AIR お披露目上映会「HELLO!HIROSHIMA」司会練習	●H-AIR 学内お披露目会、 H-AIR お披露目上映会「HELLO!HIROSHIMA」司会
観光ツアー		●場所の選定	●旅程、パンフレット作成

HAS×比治山 活動チームと、その業務について

■イベント運営チーム

全体プログラム運営補助、H-AIR 歓迎パーティー及び交流行事の企画・運営

■映像編集チーム

映画祭上映作品のダイジェスト映像作成 、H-AIR お披露目上映会「HELLO!HIROSHIMA」映像送出

■グラフィックデザインチーム

「HAS×比治山」プロジェクト活動報告書作成

■展示チーム

HAS 期間中の市民ギャラリー展示の装飾品、什器等の製作、設営

■広報・宣伝チーム

H-AIR お披露目上映会「HELLO!HIROSHIMA」や HAS 本番期間、観光ツアー等のイベント、翻訳授業、学内活動でのアーティスト・学生への取材、広報記事作成

■翻訳・通訳チーム

映画祭上映作品「劇場版パニック・イン・ザ・ヴィレッジ」の一部字幕翻訳、観光ツアーパンフレットの英訳、H-AIR アーティストの通訳サポート

■司会チーム

H-AIR アーティスト学内お披露目会、H-AIR お披露目上映会「HELLO!HIROSHIMA」、HAS 本番期間の司会

■観光ツアーチーム

観光ツアー企画、パンフレット、ツアーフラッグ等作成 、ツアー当日のアテンド

HAS×比治山 スケジュール

7月	8月	9月	10月
●第 4 回全体プログラム	●第 5 回全体プログラム ●「ひろしまアニメーションシーズン 2024」ボランティア参加 8/14-18 @アステールプラザ ●ステファン・オビエ監督トークショー 8/19@学内 ●観光ツアー(宮島)8/19		●報告会 ●大学祭で展示発表
●HAS 上映作品ダイジェスト映像制作			
		●冊子作成準備	●冊子デザイン
●HAS 会場の展示空間作り着手 展示模型を用いて構成を決定	●展示用テーブル・間仕切り作成、展示用カーペット加工、梱包作業 ●会場展示準備・片付け ●展示「HAS× 比治山」プロジェクト紹介		
	●HAS 期間中、観光ツアー取材・広報記事作成	●冊子原稿作成	
●観光ツアーパンフレット英訳 ●H-AIR ワークショップ通訳 7/13@広島 T-SITE 広島蔦屋書店 ●H-AIR 作品上映＆トーク通訳 7/21@ひと・まちプラザ	●翻訳作品上映鑑賞、監督トークショーに登壇 8/18 ●観光ツアー通訳 8/19		
	●HAS 期間中、大ホール・中ホール司会		
●ツアーフラッグ、オリジナルステッカー作成	●観光ツアー(宮島)アテンド 8/19		

イベント運営チーム

おもてなしの気持ちと臨機応変さ

イベント運営チームは名前ほど仕事が明確でなく、初めてのメンバーで行う初めての取り組みのため、手探りの中進めました。その中で大事にしていたことは、「HAS がうまくいくために何ができるか」を考えて行動に移すことです。例えば「レジデンスアーティストが喜んでくれたら本学が関わった意味が増す上、学生としてもよい経験になる」という意見から、「Welcome Book（広島のことなどを写真とともに紹介する冊子）を作ろう」、「歓迎会はどこでやるか」と話が進みました。また、レジデンスアーティストが来てからは興味関心を聞き、「書道教室を開こう」など、交流を深めました。

学生が主体となって課題を考え、その対策を企画実行し成果を上げるのは Project Based Learning の基本ですが、とても意欲的に活動してくれました。最初は英語が苦手で話しかけるのを躊躇している学生もいました。しかし、話を聴いてみるとコンクールに作品を出している学生や色々な活動に取り組んでいる学生が多く、話のネタはたくさんありました。だんだん関わる機会を重ねることで、自身の作品の写真を用意したり、あらかじめどういったことを聞くか英語で用意したり、また英語がとっさに出なくても他のメンバーや先生に協力してもらい、なんとか想いを伝えるという経験を重ねていました。

このような経験は、世界で活躍するアーティストとの交流もさることながら、学生にとってかけがえのない経験になったと思います。

歓迎会でお渡しするウェルカムブックを作成

H-AIRアーティストの歓迎会では、作品についてなどいろいろなことを話しました

担当教員	生涯学習・地域連携センター：中村 孝
学生メンバー	伊藤 朱萌、岩田 汐凪、貝原 誠、髙田 杏里、竹場 尊世、中野 颯真、藤田 理人、牧平 碧、峯左 琉星、向井 武男、寄元 愛史

映像編集チーム

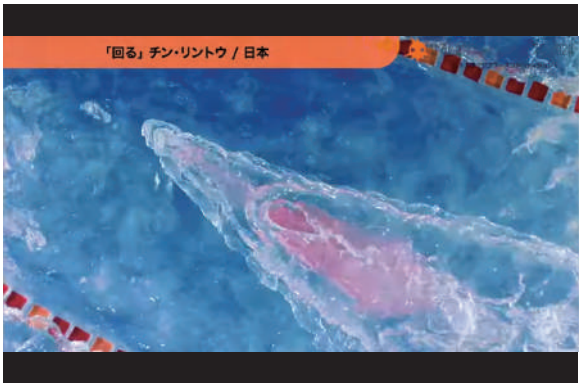
ぶっつけ本番、本上映での操作！そして 90 秒のダイジェストでいかに映画祭の魅力を伝えるか！

映像編集チームの主な役割は、横川シネマでの本上映における映像の送出と、映画祭のコンペティション作品をカテゴリごとに 90 秒のダイジェストにまとめることでした。チームは、美術科の映像・アニメーションコース 10 名の学生で構成されました。

まず、横川シネマでの上映会では、学生たちは 3 名の作家の 5 作品をトークのタイミングを見ながらスクリーンに送出する仕事を任されました。しかし、上映構成の変更などの事情から急遽、映画館の映写室ではなく客室のパソコンから送出することになり、さらに、チーム担当教員（宮﨑）が全体進行に関わるため、学生たちにすべてが任されることになりました。学生たちはネットでソフトウェアの使い方を調べ、なんとか送出を行うことができました。また、スクリーンにパソコンの操作画面が映らないようにするのが難しく、黒みを出すことができない事態に陥りましたが、他の担当の学生が手でシャッター（黒み）を入れてくれて、無事上映を終えることができました。焦りの中でも問題を自分たちだけで解決する姿は頼もしかったです。

また、ダイジェスト制作については、7 つのカテゴリの内、各自受け持ったカテゴリの作品を全て鑑賞した上で行いました。魅力的な部分を抜き出して、お客さんに「観たい！」と思ってもらえるように 90 秒にまとめることは非常に難しい作業でした。また、カテゴリのラベルや映画祭のロゴを映像に載せたり、さまざまな国の監督の名前を間違えないように表記することにも神経を使いました。夏休み前に五月雨式にデータが届き始めたため、授業の課題とダイジェスト制作の時期が重なり、夜な夜な作業をしてくれた学生もいました。ダイジェスト映像は大好評で、HAS 公式 YouTube にもアップされています。

作家が作品に込めた思いや理解を深めてダイジェストを制作しました



完成したダイジェスト

担当教員	美術科：宮﨑 しずか
学生メンバー	阿部 美月、有川 小春、馬野 優来、岡田 瑞巴、小林 千紗、佐伯 愛、信永 麗、皆本 夏美、森岡 真由、和氣 史奈

グラフィックデザインチーム

事業の成果を、見やすく美しいビジュアルにする

短期大学部専攻科美術専攻グラフィックデザインコースの５人で、HAS× 比治山プロジェクト活動報告書（本書）の作成を担当しました。

冊子作成の目的は、本学が HAS の事業にどのように関わったのか、を説明することや、HAS の活動を通じて学生が、どのように取り組み成長したのかを記録することと、加えて比治山大学・比治山大学短期大学部の広報活動で利用することなどです。

それにふさわしいデザインするために、まず最初にメンバーが行ったことは、この冊子の目的について話し合い、どんなデザインのイメージが良いかを議論することでした。次に多くの冊子やパンフレットを収集し、そのデザインを吟味し、参考になりそうな資料を集めて、デザインスタイルを考えていきました。やがてデザイン方針（ディレクションすること）が固まってきて、冊子は B5 版形にすることや、冊子の余白の寸法、テキストブロックの配置、見出しや本文の文字サイズ、柱（冊子の左上の小さな見出し）の入れ方、鍵となる色彩を黄色にすることなど、デザインのポイントを決定していきました。

そして最後に実際のレイアウトデザインをして、文字や写真など多くの情報を、どうすれば読みやすく分かりやすくできるかを工夫してデザインをしました。アニメーションシーズンでの上映作品や多くのアーティストからも刺激を受けながら、この活動を行いました。

ブレーンストーミングから始まって、方向性を固めること（ディレクション）からデザインワークまで、チームワーク良く作業を進めてくれました

担当教員	美術科：斉藤 克幸
学生メンバー	杉本 絢菜、髙村 真依、豊田 せりか、松本 怜奈、向井 彩未

展示チーム

ゼロから作り上げる展示空間とは

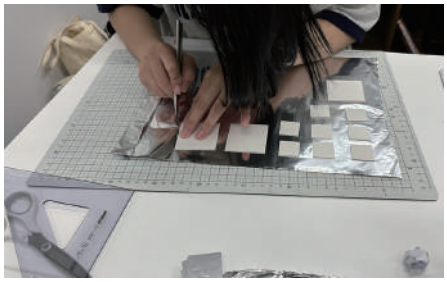
展示チームでは、各作家の作品情報を汲み取り、学生と共に展示空間をゼロから作り上げました。まずは、展示構成をどのようにするかを話し合い、マケット（展示模型）を作成して展示空間を視覚化し、空間の見せ方を考えることから始めました。やわらかく、広がりのある空間にしたいという意向から、会場には壁面を極力なくし、空間に曲線を取り入れる案が浮かび、カーテンを使用してコンテンツを区切ることになりました。会場の制約上、施設を傷める行為が禁止のためビスも打てない、接着剤も使えない中で２日間の設営期間で仕上げるという極めて計算された作業工程が求められます。そこから、展示に関わる全ての装飾品、什器等を製作し、設営までを一貫して行いました。

かなりタイトなスケジュールの中で、設計から設営までを行い今回の映画祭を通じて学生たちも展示に対する意識が変わったと思います。

アステールプラザ 市民ギャラリー全体の展示構成を考えます

限られた設営期間で展示空間を完成させなければなりません

事前に学内で装飾品や什器を製作します



完成した展示

担当教員	美術科：砂川 啓介、総合生活デザイン学科：春日 琢磨
学生メンバー	岩田 汐凪、大﨑 玲奈、岡本 涼風、里見 聡樹、竹場 尊世、中野 颯真、西村 明日登、日野原 綾、藤田 理人、坊迫 光、峯左 流星、若木 優之介

広報・宣伝チーム

具体的に、的確に、「HAS× 比治山」の活動をお届け！

広報・宣伝チームは、HAS に取り組む各チームの学生や海外アーティストに取材し、本学ホームページに掲載する記事を執筆しました。はじめに取材方法の基礎についてレクチャーを受け、メモの取り方や質問の考え方といった基本的な取材方法を学びました。その後、各チームの学生に取り組んでいる活動や学んだことを取材しました。また、海外アーティストが比治山大学に来訪した時や、横川シネマでの H-AIR お披露目上映会「HELLO!HIROSHIMA」の際に、アーティスト 3 人にも取材を行いました。

最初は、取材相手の話した内容を聞きながらメモを取ることが難しく、上手く話ができないこともありました。しかし、活動を続ける中でコツをつかみ、相手との会話を楽しむことができるようになりました。また、単に話を聞き、書き起こすだけでなく、活動に対する一人ひとりの思いにもフォーカスを当てて、比治山大学が行った HAS への取り組みを広く学外の方にお伝えするように努めました。

今回の広報・宣伝はおよそ 5 か月の活動でしたが、学生が試行錯誤しながら取材する姿を見守りました。海外アーティストの取材に英語の翻訳アプリケーションを使用するなど工夫しながら積極的に話す姿は、とても頼もしかったです。この活動を通じて、人と話す力や情報をまとめる力を身に付けることができたと思います。終了後のアンケートのコメントに、「広報として記事を書くうちに文章力と PC のタイピング力が上がった」とありましたので、学生本人の自覚と一致しているようです。今後の授業課題や就職活動にも活かしてもらいたいと思います。

取材法レクチャーからスタート

横川シネマでのお披露目上映会後の取材風景

学生の活動も学外の方へもわかりやすく伝えられるよう工夫しました

担当教員	マスコミュニケーション学科：児玉 勝司、林 春伽
学生メンバー	井上 瑞希、白井 仁、田辺 心花、田端 真衣、山内 琢款、山岡 凛音、横山 和実

翻訳・通訳チーム

ステファン・オビエ監督『劇場版 パニック・イン・ザ・ヴィレッジ』の字幕翻訳に挑戦

HAS× 比治山プロジェクトのチームの中で、翻訳・通訳チームは比治山大学の学生と比治山女子高等学校の生徒のコラボレーションが実現したチームでした。

プロの翻訳家の指導を受けつつ、アニメーションに字幕をつける作業は、日本語と英語のニュアンスの違いをどう表現するか、字数制限もあり骨の折れる作業でした。翻訳作業を通して、学生・生徒は日本語に対する感覚も磨かれました。また、今回の学生たちの活動は上映作品の字幕翻訳だけにとどまらず、観光ツアーパンフレットの英語翻訳や韓国語の得意な学生が H-AIR アーティスト ムン・スジンさんの韓国語の通訳サポートを行うなど、様々な活動を通して HAS をバックアップしました。

翻訳作業はなかなか外から見える活動ではありませんが、学生・生徒が各自でコツコツと作業を行っていき、HAS を下から支える大切な活動だと感じています。また、大学生と高校生の協働作業で字幕翻訳が完成したということも、今後の教育につながっていく可能性を感じた活動でした。

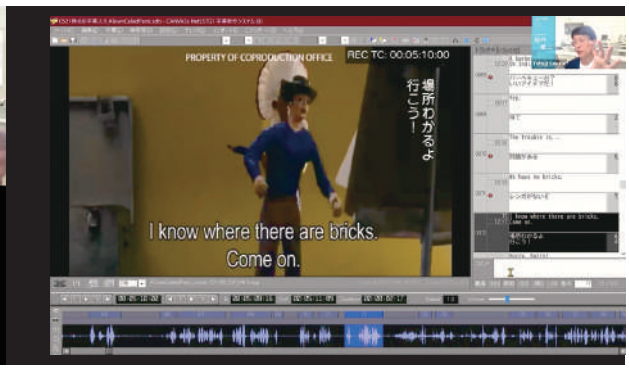
4 月から翻訳の講義は、VTA 映像翻訳ディレクター、桜井徹二さんにお越しいただき、比治山女子高等学校の英語コースのみなさんと一緒に対面で行われました。

2 回目からはオンラインで受講し、各自の担当箇所について意見交換をしてブラッシュアップしていきました。最終講義の 6 回目は、全員で映像を観ながら、よりシチュエーションに合った訳にするため、一語一語、最終チェックを行いました。例えば、Oh yes… の訳を、「んん そうか…」から、「ああ そうか…」に修正し、もっと合う表現を探して、「ああ そっか…」に決定する作業は、他の人の訳を尊重しながらも自分の意見を言い、良い作品にしたいとの気持ちが全員に表れていました。その他にも日本語の字面を綺麗に整える作業では文字と文字の間に半角スペースを入れて日本語の見た目を整えたり、数字の使い方など翻訳のルールに基づいて細かなチェックをし、講義は終了しました。集中した濃い時間に、学生たちの達成感が伝わってきました。

ステファン・オビエ監督『劇場版 パニック・イン・ザ・ヴィレッジ』は、最終日の 8 月 18 日に会場で上映され、大画面で見届けました。

以下は翻訳参加学生のコメントです。

「失敗を恐れて、何かに挑戦するということを今まであまりしてこなかったので、その部分を変えるような良い機会になったと思う。うまくできるかがわからず、不安なことも多かったけど、思い切って参加してみて、何とか乗り越えることができて良かった。」



オンライン講義の様子

担当教員 メンバー	言語文化学科：佐々木 淳、高柳 有希、比治山女子高等学校：新山 真央 比治山大学：池田 すみれ、北川 莉瑚、久保田 未来、TAJIMA MARCIO JOSE TETSUO、趙 在温、山本 和香葉 比治山女子高等学校：石橋 涼、大下 莉奈、小尻 知世、松本 羚那、満井 菜月、山田 彩野

司会チーム

司会は「準備」と「度胸」!?　ハートを鍛えました！

司会担当は少数精鋭（？）、3 名のチームです。高校までに放送部での経験がある 3 人ですが、テレビ局のアナウンサーだったマスコミュニケーション学科教員（児玉）の指導の下、司会者としての基本を再確認することから活動をスタートさせました。

適切なスピードで、しっかり声を張って話すことはもちろん、司会にとって大切なのは【会場の雰囲気】を作ることです。ステージでインタビューを受ける人が気持ちよく話せるように、また観客の皆さんを飽きさせず、ステージの進行と一体になれるように、全てを任されているのが司会者です。

6 月 12 日に横川シネマで行われた H-AIR お披露目上映会「HELLO!HIROSHIMA」では、3 人の海外アーティストの上映作品を事前に観て、自分たちでインタビューの内容も考えました。アーティストの方からは、興味を持って質問をしてくれて嬉しかったと労いの言葉をもらい、気持ちよくお話ししていただけたことに安堵しています。

HAS 期間中は、会場アナウンスとステージ進行が主な役割でした。会場アナウンスは、来場者の方が気持ちよく過ごせることを意識した“声”と“話し方”で、映画祭の「キャスト」の一員であるという自覚を持って臨みました。

ステージ進行の回数は多くなかったのですが、当日の直前まで台本が手元に届かないため、不安を抱えながら度胸でチャレンジ。期間中に、ハートが強くなりました！きっとこれからの大学生活や社会に出てからも、たくましくなったハートが役立ちそうです。

打ち合わせや原稿の読み合わせは丁寧に行います

横川シネマ上映会では進行だけでなく、アーティストへの質問も行いました

担当教員	マスコミュニケーション学科：児玉 勝司
学生メンバー	丁野 結月、中原 りあら、山根 想優奈

観光ツアーチーム

広島の魅力を海外アーティストに伝えよう

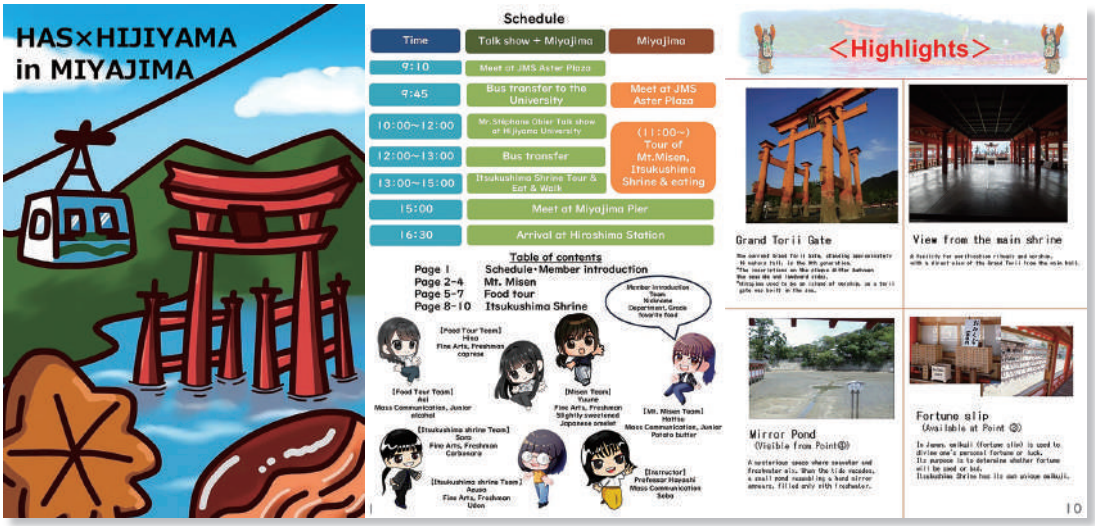
観光ツアーチームは海外アーティスト向けツアーの企画、運営を行いました。チームで話し合い、広島県の魅力を海外の方にお伝えするために宮島を行先に選びました。パンフレット作成では、マスコミュニケーション学科の観光学の授業や美術科学生のスキルを活かしました。宮島の素敵な観光スポットやグルメの情報を収集し、それをいかに魅力的に見せるかを考えながら作業しました。6 人とも、パンフレット作成は初めての試みでしたが、最終的にはオリジナリティあふれるパンフレットが完成しました。加えて、ツアー中にアーティストが迷わないようにツアーフラッグを作成したり、お土産用のステッカーも用意しました。これらも美術科学生がデザインしました。当日、参加者が最後まで安全にツアーを楽しむことができるように準備を進めました。

観光ツアーチームは 2 学科合同で学年も異なりましたが、それぞれが主体的にアイデアを出し、必要なタスクを実行しました。各学科の特色を発揮し、個性を活かしながらも、協調性を大切にして活動する姿は本当に素晴らしく感じました。

この活動を通じて身に着けたコミュニケーション力や発想力、行動力は今後の学生生活にも活かすことができるでしょう。

パンフレットはデザインやスケジュールなど、一から作りました

目印になるツアーフラッグとプレゼント用のステッカーはオリジナルデザイン！



完成したパンフレットは、海外アーティスト用に英語版も作成

担当教員	マスコミュニケーション学科：林 春伽
学生メンバー	川口 日菜、田中 優音、津間 葵衣、中本 沙良、室井 梓沙、山本 初音

宮島観光ツアー

8 月 19 日（月）は薄曇りでしたが 8 月にしては過ごしやすい気候の中、観光ツアーを開催しました。アーティストとその関係者 53 名が参加し、本学学生等のスタッフ 24 名と合わせて 70 名以上の大人数のツアーとなりましたが、アーティストの集合時の参加費の徴収から荷物の預かり、バスへの誘導と、初めから学生は大活躍してくれました。

アーティスト達に行ったアンケートでは、「思いやりを持って接してくれた」、「元気で親切で、知りたいことがあればいつでも尋ねられた」、「バス内でも盛り上げてくれて素敵な時間になった」など、学生のサポートに対してコメントをいただきました。

宮島口からフェリー乗り場までご案内！全員が遅れずについてきているか確認しながら先頭を歩きます

鹿と触れ合ったり、厳島神社へ行ったり、弥山に登ったりと、ツアーを楽しむアーティスト達

50名以上のゲストが参加したツアーは大成功！
広島の魅力を満喫してもらいました！

H-AIRアーティスト学内お披露目会

6 月 12 日（水）に行われた横川シネマでの上映会に先立って、比治山大学 3 号館プレゼンテーションコートで H-AIR アーティストの 3 名を紹介する「お披露目会」を開催しました。多くの学生、教職員が参加し、それぞれのアーティストの作品に対する考えや個性的な制作方法の工夫など、興味深いお話に聞き入りました。

司会チームの学生が司会進行を担い、翻訳・通訳チームの学生はお披露目会と新聞社による取材時の通訳に協力しました

H-AIR お披露目上映会「HELLO!HIROSHIMA」＠横川シネマ

6 月 12 日（水）に横川シネマで、アニメーションに関心がある方など地域の皆さんに H-AIR の取り組みや、アーティストを知っていただく機会として企画されたお披露目上映会では、本学の学生が受付・誘導、司会進行、上映作品の送出、通訳などの運営を担いました。

上映会では、アーティスト 3 名に広島の印象などを話していただき、その後それぞれの独創性溢れる短編アニメーション作品を上映しました。また上映後は、作品に込めた思いが語られ、作品への理解が深まりました。

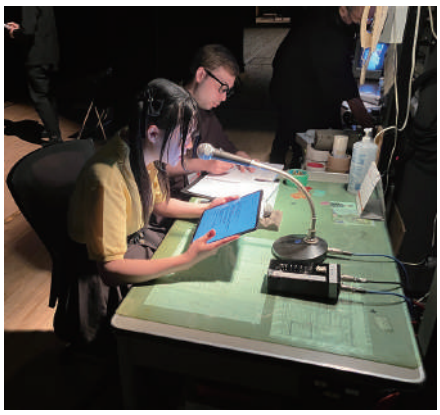
受付も学生が担当します

アーティストの3名と一緒に記念撮影

ひろしまアニメーションシーズン2024

HAS 本番期間、学生は会場のボランティアスタッフとして、チケット販売、物販コーナー、ホールの入場者管理、会場アナウンス、SNS 更新、VR 体験機器のレクチャーなどを担当しました。

さあ入場開始、学生スタッフが手際よく来場者を案内しています



いよいよ本番が始まりました。舞台では宮﨑先生が挨拶し、裏方では学生が大奮闘です

審査員達も真剣に作品を観ています

アニメーションを通じて色んな国の人と触れ合うことができました

展示会場では、最先端の技術を知りました

忙しかったけれど楽しかった五日間は、あっと言う間に最終日です

ひろしまアニメーションシーズン2024

開催期間：8月14日（水）～18日（日）
会場：JMSアステールプラザ
期間中の来場者数：約2万1000人
ゲストアーティスト数：約180名
ゲストの出身国数：約25カ国
応募作品数：97の国・地域から2634作品
入選作品数：76作品

「HAS×比治山」プロジェクト参加後のコメント

「HAS×比治山」プロジェクトでは、参加学生に３回のアンケートを行いました。翻訳チームの講義（字幕翻訳）終了後のアンケート、HAS 本番直後の熱い思いを聞くアンケート、少し落ち着いた時期に HAS 全体を振り返るアンケートを通して、各自の思いや成長を確認しました。経験したからこそ言える「楽しかった！」という感想も嬉しい限りです。ここでは、学生のコメントの一部を紹介します。

翻訳チームアンケート

■大学生や高校生、先生と協力して翻訳ができて本当に楽しかったです！難しいこともありましたが翻訳していくのが楽しくなりました。

■普段の授業ではディスカッションすることが少ないので、仲間と話し合いながら一つのものを作り上げていくという機会が得られて嬉しかった。

本場直後アンケート

■笑顔で挨拶していると笑顔で返してくれる人が多くて嬉しかったです。

■イベントなどに今までは参加する側だったので、運営する側がどういった感じなのかを少しでも知ることができて面白かった。

■作品を作っている方の話を聞くことができたし、上映作品も見られてとても楽しかった。

■与えられた仕事に対して臨機応変に対応できた。

■他の学科や比治山大学以外からのボランティアの人達や、イベントのスタッフの方達と話ができ、いろんな話が聞けて良かったと思う。

全体アンケート

＜成長したこと＞

■ゲストやスタッフさんと交流することは自分にとって初めての事だったので、いい経験になり社会勉強になったので、成長したなと感じた。

■スタッフの一員として最後までイベントをやりきる力。

■人とコミュニケーションを取って自分がどういう行動をすればいいかを自分で把握して動くことができた。

■周囲の状況や人のことを考えて、自分が何をしたらよいのか考える力やスケジュールを考える計画力、後で自分の行動を振り返る力が成長したと思う。

■自分がどれくらい自己管理できるのかが前より把握できるようになった。

■チーム内の最高学年として後輩の面倒を見たり、チームを引っ張っていく力を鍛えられた。

■メンバー一丸となっても油断ができず、信頼されて任された仕事を請け負う責任感が生まれた。当日初対面だった人も少なくなかった中で、人と関わりながらやるべきことをやり抜くことの楽しさを知ることができた。

＜学んだこと＞

■やってみようと思うこと。

■自分が今までやったことがない分野に取り組んだり、学科や学年を超えて色んな人と交流してみて、自分の知らなかったこと、新たに面白いと思えることに出会うことができた。

■アーティストの人たちから作品制作への取り組み方や考え方などを直接聞くことができ、自分の今後の作品制作にも生かそうと思った。

■様々な役割が合わさって大きなものができあがっていくとわかった。どんな役割も一生懸命取り組むことが大事。

■芸術は国境も性別も年齢も関係ないこと。

■自分がどういうところが苦手なのかを学ぶことができました。自分ができないことを他の人は普通にできていて、そういった人との違いがわかった。

■事前に、「かもしれない」と予測することの大切さと柔軟さが私には必要だと感じました。

■大規模なイベントにおいて、英語は想像以上に役に立つということ。

■仕事内容自体はシンプルだったが、それでも１人でやりきるということはほとんど不可能で、周りとの円滑なコミュニケーションが大切だと学んだ。また、１つのイベントにおいて必要な資源（準備物、人数など）と、それらがいかに重要か知ることができた。

■多くの外国人来場者を見て、広島における当イベントがどれほどの価値を持っているかが理解できた。現地の学生スタッフとして呼ばれることの責任もあるが、それ以上の貴重な経験があったと思う。

HAS× 比治山プロジェクトは 2023 年度より計画され、2024 年度のスタートとともに、全学の学生や教員に参加を呼びかけ活動を開始しました。地域志向の強い学生が多く集まる本学の生涯学習・地域連携センター長として、映画祭への参画をきっかけに、自分のいるこの場所と大学を愛し、この街を誇れるシビックプライドを醸成することが最終的な目標でした。

結果的に、本学学生、卒業生、及び比治山女子高等学校の生徒、約 60 名もの参加者が関わるプロジェクトとなり、本番期間前も含め全ての取り組みを無事に終えることができました。

プロジェクト後の学生たちの振り返りでは、「責任感を持って取り組み成し遂げた達成感を味わった」、「協力して持ち場の効率を高める工夫をした」といった、「最後までやり遂げること」や「チームで動くこと」に成長を感じる声が多く、学生たちにとって非常に有意義な経験となったようです。また、「国際色豊かなゲストとの交流で視野が広がった」、「広島における当イベントがどれほどの価値を持っているかが理解できた」など、国際的な映画祭に参画したからこそ経験、実感できることが多くあったのではないかと感じています。

学生や生徒、卒業生たちがプロジェクト終了後も連絡を取り合い、人生の悩みを相談し合うといった交流も続いていると聞き、この機会に生まれたつながりが根付きつつある様子が伺えます。

学生たちは活動を通して「地域のため」だけでなく、他者との協働を通じて自分の新たな可能性に気づき、それが自信へとつながる「自分のため」の貴重な体験として、このプロジェクトを持ち帰ったのではないでしょうか。運営の不備もあり、時には学生の忍耐に頼る場面もありましたが、それでも彼らは積極的にプロジェクトに関わってくれました。また、来場ゲストや他大学の関係者からは、「黄色いポロシャツを着て会場で出迎えてくれた学生スタッフの輝きに感動した」、「どうやってこんな大学を作り上げたのでしょうか」といった声もあり、学生がこの街のイベントをかたちづくる姿を褒められて嬉しい気持ちになりました。

このプロジェクトに関わっていただいた全ての皆様に、心より感謝申し上げます。そして何より、困難を乗り越えながら積極的に取り組み、プロジェクトを成功に導いてくれた学生の皆さんに深く感謝いたします。皆さんの努力と情熱が、このプロジェクトの大きな力となりました。

生涯学習・地域連携センター長
宮﨑 しずか

Hiroshima Animation Season 2024 × Hijiyama Project 活動報告書

発行年月日｜2024 年 12 月 1 日
発　行　者｜比治山大学・比治山大学短期大学部 生涯学習・地域連携センター
連　絡　先｜〒732-8509　広島市東区牛田新町 4-1-1
TEL 082-229-8950　FAX 082-229-5100　Mail shougai@hijiyama-u.ac.jp
デ ザ イ ン｜比治山大学短期大学部 美術科　教授 斉藤 克幸
比治山大学短期大学部専攻科美術専攻　HAS× 比治山 グラフィックデザインチーム

HIJIYAMA 比治山大学 比治山大学短期大学部